



宮城県 T邸

自衛官のTさんは、住まいとするためのログハウスを建築。

泉ヶ岳の麓に建つ木の家は夢へと向かう拠点となる

憧れのログハウスを住まいに。建てるなら慣れ親しんだ泉ヶ岳の麓がいい。こだわりのプランとそれを形にするメーカーとの出会いによって、想いは実現した。真新しいこの家は、次なる夢へと向かう拠点となるものだ。



テーブルもテレビ台も手作り。



和室にはお仏壇用の仕切りがある。



キッチンカウンターも手作り。



土間があると薪の運び込みに便利だ。



開放的なリビングは気持ちよくリラックスした空間だ。



建物を正面から見る。暮らしやすさと丸太への憧れからDログを選択した。

泉ヶ岳へ向かう県道沿いに片流れのDログハウス

仙台駅から車で40分ほど。県道・泉ヶ岳公園線は、田んぼが続くのかな景色の中、仙台市民に野外レジャーで人気の泉ヶ岳へと向かう。その途上、七北田川の対岸に低山を望む高台に、木の家はあった。空にくっきり、片流れの直線的な屋根。明るくウッディな色合いのログ壁には、丸太の雰囲気をもどくよく伝えるDログが積み上がる。

「建てるならログって決めていました。昔からの憧れだったんです」

オーナーTさんは自衛官。7年間赴任していた沖縄から、故郷の宮城に戻ったのが平成28年の夏。これを機に、長年の夢を実現させたのだそう。

その憧れは、根っからのもの。

「実家が、鳴子の牧場なんです。小学生で既にアウトドア好きでした」

日常が野外遊びのフィールドに囲まれる。木の上に小屋も作った。廃材を運び上げ、釘とハンマーで大工仕事。道具は家にいくらかもある。

「秘密基地ですね。一人で作って、友達を招待していました(笑)」

開放的なリビング 畳の部屋、2階のロフト

夢の実現に動き始めた3年前。まずは土地を探した。泉ヶ岳の麓とあって自然は豊か、かつ、買い物の便も良く

生活しやすいこの地を選んだ。

そして、肝心なのはログハウス。メーカーはどこにしよう。はじめは、インターネットで色々検索した。

「セルフビルドに前向きでオーダーにのってくれるところを探しました」プランは九割五分決まっていた。それを元に各社見積もりをとる。その中で熟意を持って向き合ってくれるところがあった。広島の会社なのに、営業の人は、すぐに来てくれた。それがサエラホームだった。

「1階がログハウス、2階が2×4という提案も良く、暮らしやすさとコスト両面で納得のいくものでした」九割五分できていたというプランが形になった実際の家を見よう。

まず、玄関から入る。すると、そこには、いきなり大きな空間が口を開けている。開放的なリビングだ。吹き抜けのずっと上に天井を見上げる。

「入ってすぐベドーンと大広間！ みたいにしたかったんです」

足元には土間。長さ3メートルほど。その先に薪ストープが収まる。

「土間は、建築途中でサエラさんの提案で付けたものです。あったらいいねという話になって。薪の運び込みに重宝しているんですよ」

入って右手には和室。「お仏壇が置けるような、畳の部屋がひとつ欲しかったんです」

木で囲まれた空間によく似合う。階段を上り、和室の上にはロフト。



ロフトはプライベートな空間



天井は高い。立派な母屋が見える。



ロフトから見下ろす。温もりの中心には薪ストーブ。



2階デッキ。目の前に低山を望む眺めが素晴らしい。



ロフトから2階洋室を見る。



外構工事は型枠から自作している



DIYの材木はログハウスの端材。

KIT HOUSE Type2

サエラホームのワンポイントアドバイス

片流れが個性的な RX-K-100のアレンジプランです。長年のログハウスの夢を実現されたT様。その熱い思いに応えようと、当社も力が入りました。躯体建築は当社で、家具や内装はご自身で。細部にまでこだわったT様念願の秘密基地が出来上がりました。引き続き、T様の夢のサポートが出来ると嬉しいです。

「木の節や模様を見ているだけで、気持ちが落ち着いてくるんだよ」

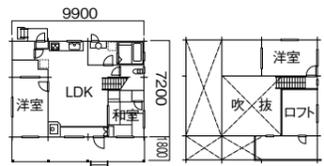
「木の節や模様を見ているだけで、気持ちが落ち着いてくるんだよ」

「木の匂いはいいですね。こっちに来て歩入ると「フワッと香ります」

「木が乾いていいですね。こっちに来て歩入ると「フワッと香ります」

「週末をこちらで過ごし、近々、官舎を引き払って引っ越し予定です。」

キットハウスアイテム：RX-K-100 アレンジプラン



1F 71.28㎡ デッキ 19.17㎡
2F 32.04㎡ バルコニー 9.00㎡

取材協力/株式会社サエラホーム <http://www.saelahomes.com/>
広島県広島市南区出島 2-20-12 TEL. 082-256-4550



ロフトへと上がる。



Tさん自らが取り付けけたキッチン。

「本を読んだりして過ごす、プライベートな空間として造りました」
片流れ屋根のいちばん高いところに陣取るやさやかな空間は、居心地がいい。そこからリビングを見下ろすのも気分がいいもの。少年時代のツリーハウスはこんな感じだった？
毎週通った建築現場 家具や内装の一部は自分の手で
竣工は昨年の6月。着工は、それから4ヶ月遡る2月のこと。ログ組、そして、躯体の建築は、全部サエラホームにやってもらった。
「初めは、セルフビルドも考えたんですが、一生ものなので、やっぱりプロに建ててもらうことにしました」
その代わり、ご自身は、本棚やテーブルを製作しに、官舎のある多賀城から建築現場に足繁く通った。
「ほとんど毎週末来ていたので、土日はずっと大工さんと一緒にした」
見学していると、プロのビルダーの仕事には感心しきり。しっかりと手をかけてくれているのだ。
「ログハウスというダイナミックな印象がありますが、細かいところも丁寧に仕上げられていくんです」
今回はよく勉強して、いつかはログハウスを自分で、ログ組から建ててみたいという思いを深めた。
と、言っても、今回も内装はご自身で手がけた部分が多くある。
まずはキッチンの取り付け。
壁面をあえて塗装しなかったことが良かった。木の手触りがいい。
目下のところ、こちらでの滞在時間のほとんどはDIYに充てられる。今は、外構工事、ゆくゆくは、庭にガレージなどを造る予定だ。
実は、次なる夢がある。
「リタイア後は、ガレージで飲食関係のお店をやりたいんです」
アウトドアシーズンになると、目の前の県道には、泉ヶ岳に向かう車列ができる。実は、Tさんも、かつてはその並びの中にいたそう。
「もともと山登りも好きですし、泉ヶ岳はトレーニングの地でした」
なんと、その昔はバイアスロンの選手で、国体優勝も経験したそう。
「今は70%ができたところで、残り30%を自分で仕上げたいです」
目下、七合目、頂上はあと少しだ。木の家は、ここから先の拠点となる。目の前には、次なる夢へと向かう道がまっすぐ伸びているのだ。